

令和5年度 光沢寺中井幼稚園

自己評価・学校関係者評価 報告書

1. 光沢寺中井幼稚園の教育目標

- いきいきと意欲的に活動する子ども
- 自分も他者も大切にし、みんなのことを考える子ども
- 自分で考え、自分の言葉で話し、自分で行動する子ども

2. R5年度の重点目標

- ①子どもたちが主体となり、連続した遊びの構築
- ②一人ひとりを大切に育てる意識の向上
- ③計画性、協調性、効率性をもって仕事に取り組む意識の向上

※自己評価に関する説明（裏面）、及びR5年度の総合的な自己評価結果と今後の課題（別紙）

3. R6年度の重点目標

- ①子どものやる気を持続させる環境構成の工夫と保育者の援助を工夫する
- ②職員間の連携を上手く図り、どの保護者とも信頼関係が築けるよう目指す
- ③積極的に研修受講に努め、専門職としての意識向上に努める

令和5年度 光沢寺中井幼稚園 自己評価・評価指標及び評価結果

評価項目	評価指標及び評価結果						
	基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	評価に関する説明・意見
重点目標① 子どもたちの発想や自発性を大切にした保育の展開	4	子どもたちが主体となって、遊びを展開する楽しい保育を行う	3. 1	4	仲間と一緒に進んで活動に取り組み遊びこむ楽しさを味わう	3. 2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの活動する姿を観察し、興味を合わせて環境を再構成することで、子どもの主体性が発揮され楽しむ活動が展開された。 ・保育者が子どもたちを信じて任せること、また十分な時間、スペース、適切な材料準備などに余裕をもつことが大切だと気づき、その点を重視した。子どもたちが独自の発想を発揮し、イキイキと遊び込み、クラスでの育ち合う姿に繋がった。消極的な子どもも自分なりの思いや考えを表現して、仲間と一緒に活動を展開し、充実感を抱いていた。
	3	子どもの発想や自発性を大切にした環境を作り日々の活動に柔軟に対応する		3	自ら周りの環境に働きかけ、楽しむ姿が多くなる		
	2	子どもの姿に合わせた、保育環境を構成する		2	やってみようとする気持ちや繰り返し挑戦しようとする気持ちが高まる		
	1	子どもたちがやる気になる、誘いかけをする		1	自分でやってみたり、気持ちを表現したりする		
重点目標② 子どもひとり一人を丁寧に受け止め保護者との信頼関係を築く	4	園児の保護者との信頼関係を図り子どもの成長を喜び合う	3. 9	4	保護者も子どもも安心して園生活を送る	3. 3	<ul style="list-style-type: none"> ・人権研修で学んだことを共有し、子どもの権利が守られているかを職員間で討議し、日々の保育の中で意識した。その結果、より細やかに子どもの気持ちを理解しようとしてきた。生き辛さを感じている子どもに対しては、専門機関と積極的に連携を図り、保護者への働きかけも含めて、丁寧に支援を積み重ねてきた。保護者と共に子どもの成長を喜び合いながら信頼関係を少しずつ築いてきた。・子どもの実態を受け入れられない保護者への対応が難しいが、園全体で共通認識をし保護者へ働きかけることで、時間はかかるが前向きに動き始めている。
	3	生きづらさを感じている子どもを理解し仲間と共に園生活が楽しめるように支援する		3	支援の必要な子どもも友達と一緒に楽しく過ごす		
	2	子ども一人ひとりの気持ちを尊重し細やかな配慮を心がける。		2	園の中で安心して、自分の思いが表現出来る		
	1	公平性を意識してどの子にも愛情をもって関わる		1	いつでも、理解してもらえ先生が側にいるという安心感がある		
重点目標③ チーム保育を生かした保育の取り組み	4	意見を積極的に交わし、保育や行事の立案・準備をする	3. 0	4	全職員が向上心をもって、質の高い保育を目指すようになる	3. 2	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム保育では、担任同士が、前週の評価反省・子どもの姿・保育計画を理解して、保育するように意識した。その保育の積み重ねによって、スムーズなクラス運営がなされ、担任同士の相談しやすい関係も構築された。・新人保育者は、経験ある保育者に助けられながらも、自分が出来る仕事を任せられ、やり遂げられて自信に繋がった。・担任同士が互いの保育観を尊重し合い、保育が子ども主体になるためには計画を立てる段階で、いかに共通認識を持つことが大切かということに気づき課題だと思った。
	3	アシスタントの先生とも協力して、分担分業を行う		3	分業が公平で、仕事の効率が高まる		
	2	クラスの担任同士が、話し合って提案し、共通の思いで保育をする		2	職員同士での話し合いが活発に行われる		
	1	日常の保育の振り返りをクラス担任やアシスタントの先生と共有する		1	先輩後輩の間でも、お互いの意見を聞き合い、よりよい方向で仕事に取り組める		

●今年度の総合的な自己評価結果と今後の課題

- 子どもの発達を理解した「保育計画」、子どもの発想を生かした「保育の展開」・「環境構成」及び子どもの遊びに則した「環境の再構成」について常に話し合い、共通理解を図ることが、子どもたちが独自の発想で遊びこむことに繋がったと思われる。しかし、行事に向けての活動の一部で、完成形を意識するあまりに、子ども主体とは捉えにくい活動になっているのは、大いに今後の課題でもある。
- 職員が研修の受講（人権研修・わらべ歌・乳幼児保育・教育相談・主体的な保育について・児童虐待防止・保幼小連携など）で得たものを活かして、常に専門職としての意識向上に努めていく風土が失われないようにしていきたい。また、職員間の連携と保護者との信頼関係の構築を常に意識して、特別支援が必要だと思われる子どもの保護者との連携にも継続的に努めたい。
- 職員一人ひとりの職務に主体的に取り組む姿勢が、職員間で刺激し合っている。また、チーム保育も含めて、職員間のチームワークを上手く図ることが、仕事効率をよくする最善策であることを全職員が認識している。
- 子どもの主体的な生活と遊びについては、カリキュラムマネジメント（PDCA）を中心に、子どもがやる気を持続させられるような環境構成及び環境の再構成の工夫を行い、更なる子どもたちの夢中で遊び込む姿を目指したい。

学校関係者評価委員の所見

重点目標に従い、取り組みをしっかりとやられていることを確認した。各取り組みに対し、管理も問題ないと思われる。先生相互間の支援体制も整っている。自己評価と今後の課題もしっかり把握し、次年度に生かせる体制にある。

【委員 T F】

学校関係者評価委員の所見

子どもたちの心と体の発育の力添えになるように 職員間のチームワークがよくとれているように感じます。きっと子どもたちの未来に夢を持てるような成果につながると思います。

【委員 K K】

学校関係者評価委員の所見

子どもを主体に保育をしている教育方針は昔から変わらず、環境や保護者の対応する保育者の姿はすばらしい。この報告の作成、新年度の目標など全員で共有し教育して行ってほしいです。

【委員 Y A】

学校関係者評価委員の所見

子どもが日々幼稚園生活を送るのを目にしながら、本当に感謝する保育をいただいていると感じています。

【委員 N S】